

令和3年度第1回山口県総合教育会議 議事録

1 日 時 令和3年9月6日（月）16:00～17:00

2 会 場 山口県庁4階 共用第1会議室

3 開 会 （事務局）

4 知事挨拶

教育委員の皆様には、平素から本県の教育行政の推進にご尽力をいただいていることに対して、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

また、本日お忙しい中お集まりいただき誠に感謝申し上げます。

ご承知のように、全国で今、非常に感染力が強いデルタ株が猛威を奮っている。新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大に見舞われているわけであるが、本県でも例外ではなく、これまでの四つの波を大きく上回る急激な感染者の増加が続いている状況である。

このため、現在、県においては、デルタ株感染拡大防止集中対策として、感染への不安がある方を対象としたPCR検査の無料実施とか、飲食店等に対する営業時間の短縮の要請など、あらゆる対策に取り組んでいるところである。私としては、何よりもまずこの現在の感染の早期収束を図って、県民の皆様の安心・安全な生活を取り戻すことに、全力を尽くしていかなければいけないと思っている。

そうした中で、各学校では新学期が始まり、学校の再開に伴う感染拡大が危惧されるわけであるが、子ども達の学びを止めないということを基本に、感染防止に万全の対策を講じた上で、教育活動を継続させていくことが重要と考えている。

このように、私たちが暮らす社会は、コロナによって先を見通せない不安に覆われている。さらに、急速な技術革新、またグローバル化が進展する中で、デジタル化等の社会変革を進めて、コロナとの共存を前提とした新たな日常を作り上げることが求められている。そうした従来の延長線上にはない将来の予測が困難な時代を迎えているといえる。

そうした中で、私は本県の未来を切り拓いていく人材の育成がますます重要になると思っている。教育委員の皆様からも御意見を伺いながら、今年の3月、これからの人づくりの指針となる「山口県新たな時代の人づくり推進方針」を策定したところである。この方針に基づき、4月には幼児教育・保育の充実に向けて、県教委と連携して、「乳幼児の育ちと学び支援センター」を開設した。また、子ども達や若者の新たな価値を創造する力を育むために、現在、ICTを活用した海外の学校との遠隔事業とか、デジタル人材の育成に向けた教育プログラムの実施など、新たな学びの場づくりにも積極的に取り組んでいる。また8月に、行政はもとより様々な関係者が一体となって、人づくり

の取組を推進していくために、全県的な連携・協働組織として、「新たな時代の人づくり推進ネットワーク」を創設した。そして、専門的な知見に基づく助言や提案をいただけるように、6名の外部有識者によるアドバイザーも新たに設置をした。

こうした体制を活用して、若者たちがあまねく学びを通して志を育み、その持てる力を最大限に発揮して行動していくことができるように、今後とも、新たな時代の人づくりにしっかりと取り組んでいきたいと考えている。

本日は、ただいま申し上げたような、今年度の主要事業の取組状況をご報告させていただき、また、来年度の重点取組方針についてお諮りをするところとしている。委員の皆様には、忌憚のないご意見・ご提案を賜りますように、どうぞよろしくお願ひしたい。

5 議事概要（議事進行：知事） ※委員発言：● 事務局説明等：○

(1) 令和3年度重点取組方針主要関連事業の取組状況について

(2) 令和4年度重点取組方針について

○事務局から別添資料に沿って一括して説明。

●宮部委員

数点ほど、お話しさせていただきたい。まず、令和3年度の人づくりに対してコロナ禍にもかかわらず、いろいろな策を講じられており、順調に進んでいるようで本当にありがたいと思っている。それは、ICTをうまく使っているからこそ、できるのだろうとっており、本当に感謝している。

まず、本県の場合は、圧倒的に私立幼稚園が多いと思うが、その幼稚園・保育園の先生方の指導力の向上、保幼小連携を図る中で、予算についてお話ししたい。私立幼稚園の先生方の人材確保が難しいとよく耳にするので、県としてもかなり突っ込んだ予算を確保し、ご支援させていただきたい。それは先生方に対して、報酬の問題もあるかも分からないが、やはり教える先生方がまともな生活ができる環境でなければいけないと思っている。その辺の支援策については具体的には分からないが、お願ひしたいと考えている。昨年、下関市立清末幼稚園と清末小学校を訪問したが、お互いに市立ということで、非常に連携がうまくできていた。あのような形が、私立幼稚園と市立小学校さらには他地区でもうまくいけば良いのではないかとと思っている。

それと、各地区で地元の偉人の考え方を学ぶというような場があると良いと思う。ある会議の場で、知事に対して、漫画にしても良いのではないかといいことを話したことがある。県民の方々は、山口県の明治維新で活躍された偉人のことについては、知っている。しかし、もっと身近である地元の偉人について勉強していただきたい。例えば、岩国市の元高校教員の方が、地元の偉人7人を岩国セブン・ファーズという名称で取り上げて、本を出版されてい

る。この7人の中に、藤岡市助さんなど立派な方々がおられるが、今回、さらに偉人10人を加えた内容で本を出版された。その方から、なかなか予算的に苦しい中で、各学校・地域で講演会を行いながら、本を寄贈されているということを知っている。やはり、子ども達にとって、一番近い地元の偉人について話をする方が、良いのではないかと考える。他にも各地区でもそのような活動をしている方がいるので、何か予算を付けていただければ大変ありがたい。また、地元の偉人情報について、情報発信するような手立てがあれば、もっと各市町から様々な情報が出てくるのではないかなと思う。さらには、子ども達にとっても、勉強になるのではないかなと思う。

最後に、安心・安全ということで、令和4年度重点取組方針の中で、建物の校舎の長寿命化が掲げられているので非常に良いことだと思う。先日、他県のことであるが、通学路のガードレールがない場所で、子ども達の交通事故があった。そのような通学路も含めて、災害、水路危険箇所、ガードレールのないところをしっかりと調査していただいて、安心・安全に繋がるようにしていただきたい。

●村岡知事

まず、公立幼稚園はもとより私立幼稚園についても連携していかないといけないと考えている。また財政的になかなか厳しいところがあるが、県も私立幼稚園、私立学校に対する助成金というのは毎年予算を付けている。厳しい中でも毎年少しずつ増やしているのだから、さらに充実できたら良いと思う。

それから、地元の偉人の話について、離れた地域よりも自分が住んでいる地域の方が、身近に感じると思う。また、目標にしやすいとか学ぼうという意欲も高まると思うので、そのような工夫はおっしゃるとおりだと思う。

それから安心・安全の点について、本当に痛ましい事故があったが、やはり、子ども達の安全を守るのは我々の責任である。必要な箇所については点検をするとともに、改善も図っていきたいと考える。これまで以上に、注力をしていきたいと思う。

●佐野委員

I C Tを中心に、これまでにない多くの教育予算を確保していただき、本当に感謝している。最初に、新たな時代に向けた人づくりについて、幼児教育に対して様々な子ども達の育ちを支援するプログラムが準備されている。また、幼児教育と小学校教育との連携が円滑に連動できるような取り組みがされているので、大変良いことだと感じている。幼児教育で取り組んでいる試みが、切れることなく小学校教育でも生かせるという教育の連続性が有効になるのではないかなと感じている。なかなか、取組の効果が感じにくい部分だと思われるが、長期的な視点で効果や課題についても検証していただきたい。

続いて、若者の県内定着促進、教育環境の整備充実について、現状において、大変残念であるが、山口県で学ぶところ・働くところの確保が十分であるとは言い難く、多くの若者がいったん県外に出て学んでいる状況であると感じている。将来、そのようなバランスが変化して欲しいと思うが、県外に出る必要があった人たちも、山口県で生まれたり育ったりというアイデンティティーを持ってもらうことで、どこかで山口県との関係を持ち続けてもらいたいと感じている。

また、ある先人の活動や、歴史を身近に感じるということというのは、その一つの方向性だと感じている。

また、ここ最近、デジタル・トランスフォーメーションやICTという言葉が普通に使われるようになってきたが、その中で気になる記事を目にした。日本経済新聞社が人口10万人以上の285市区を対象に、テレワークに適した環境が整っているかどうかを分析・採点したという記事が目にとまったが、山口県は、宇部市が170位の最高ランキングで、次に山口市の175位、周南市の186位と続いていた。通信環境での通信速度、この上位市区10ヶ所ではだいたい7ポイント台が多いにもかかわらず、山口県では最高のポイントが2ポイントであり、かなり低いということが気になった。インターネットを通じた遠隔通信による繋がりという部分が重要な要因になるにも関わらず、通信速度が遅いということは、住む空間や働く空間に恵まれているというメリットを生かしていない状況であり、ボトルネックになっているのではないかと心配した。これは学校でのICTの活用の取組にもいえることで、活用するためのソフト面が用意されていても、繋がりにくいとか、通信速度が遅いとかで、生かしきれていないのではないかと感じている。日常生活でも光ケーブルはしっかり繋がっているが、思った以上に通信速度が出ないということを感じるが、県が新しい技術を有意に活用するためには、周辺環境整備についても、目を向けていくべきであると感じている。

また新型コロナウイルス感染症における生活が長期化する中、児童生徒の影響も出てきているのではないかと感じている。小学校5年生の肥満傾向の出現率が増加し、中学校2年生が「読書が好き」と感じる比率が低下してきている。本年度の全国学力学習状況調査においても、過去10年来のデータと比較してあまり思わしくない傾向になっており、特に、小学校での影響は顕著に出ている。小学校5年生の児童の国語の読む力、算数でのデータの活用という点で、両方とも読み取る力の低下が気になっている。全国的には新型コロナウイルス感染症による休校と学力の相関関係はあまりないと言う記事も目にするが、山口県においては影響、相関関係がないとは言えない状況ではないかと心配しており、対策が必要ではないかなと感じている。

最後に、多くの人たちが新型コロナウイルス感染症対策に力を尽くしているが、まだ長期化しそうな気配を感じており、子ども達の成長については、学習

成績だけでなく、体力や心の状態の指標にも目を配って、子ども達の学びと成長を助けていただきたいと感じている。

●村岡知事

幼児教育から小学校教育への連続性については、言われる通りとても重要であると思う。これから、今までの取組に対する効果や課題に対して、改善を図り、P D C Aを回していかなければならないと考えている。

それから、若者の県内定着について、どうしても県外への流出が続いている。新型コロナウイルス感染症の影響で、大都市から地方へという流れも出てきているが、しっかりと我々の方でも山口県での活躍の場を提供していかなければならないと思う。

また、郷土教育についても、地域のことをよく知ってもらい、愛着を持つような教育を進めていかなければいけないと考えている。

それから、インターネットの通信速度について、県内全体でブロードバンドの整備等を行っているが、その回線の太さが十分でなく、地域でも差がある。県立学校でも1人1台タブレット端末を導入したが、一斉に使用すると繋がりにくい点があるので、通信環境についても改善をしていかなければならないと考えている。地域全体としての底上げはもちろん、民間にもお願いをしており、なかなかすぐには整備ができない状況であるが、学校の環境整備については、予算面でもしっかりと措置していきたい。

あと、全国学力学習状況調査の結果が発表されたが、県教委の方で今後の課題をしっかりと整理をして、対応していくのではないかなと思う。新型コロナウイルス感染症の影響がどの程度あるのか分からないが、やはり長期間続いているので、学力や体力などの様々な面で影響が出ているのではないかなと思う。新型コロナウイルス感染症のない社会がすぐ来るわけではないので、そのような状況を踏まえて、課題分析をするとともに、対応をしていかなければいけないと考えている。

●小崎委員

令和3年度重点取組方針主要関連事業に関して、令和3年2月18日に実施された会議では、事業案の段階だったので、詳しい内容までは分からない部分があったが、本日の会議資料を見させていただいて、各事業の取組についてよく把握することができた。

特に、子ども達を対象にした多種多様なセミナーやプログラムが企画されており、コロナ禍で難しい部分もあるが、一つでも多くの取組が実現してほしいと思っている。その中でも、「新たな時代に向けた人づくりの推進」における「クリエイティブ・キッズ育成事業」の「ワークショップコレクション in やまぐち2021」は、本当に面白い企画であると思う。このように、親子が共

に楽しく学べる場があるというのは、保護者・子ども達にとっても、大変、良い体験になると思う。新型コロナウイルス感染症の影響で実施できるかどうかは分からないが、開催された際には、幼児教育の取組がさらに広がるので、本当に期待が持てる。ぜひ、このワークショップが実施されたら、見学に行きたいと考えている。

このような様々な取組が形となって、多くの県民の関心を引くことで、より良い効果を生み出すことができ、未来は明るいと思う。新型コロナウイルス感染症がまだまだ続くが、できることをしっかりやっていただきたい。

そこで、ぜひ、知事をお願いしたいことがある。知事と中学・高校生が話しをすることができる場を提供していただきたい。例えば、「知事と語ろう」とか、「知事と話そう」みたいなそのような企画があれば良いと思っている。この「新たな時代に向けた人づくりの推進」の主役は、やはり中学・高校生であると思っている。中学・高校生が、山口県の取組をどこまで知っているのか疑問を感じている。大人たちは何をしようとしているのか、中学・高校生に対して何を期待しているのか、彼らに伝えていかないといけないと思っている。やはり、知事の口からその思いを伝えることが、大切であると思う。直接、知事と話すことで、彼らにとって何よりも刺激になると考える。知事と話すことで、彼らがどのように感じ、今から何をしていかなければならないのかを考えさせる機会を作ってください、彼らの成長を見守っていききたいと思う。毎回、様々なお願いをするが、ぜひ実現していただきたいと思う。

●村岡知事

まず、ワークショップコレクションについて、去年から実施したいと思っていた事業であり、子ども達にとっても刺激的な内容である。新型コロナウイルス感染者数が多くなければぜひ実施したいと思うので、開催の際にはぜひ参加いただきたい。新型コロナウイルス感染症は完全にはなくならないが、ワクチン接種が進む中で、国・分科会等でも催物の再開について議論されている。そのような中で、日常生活はもとより教育もどのようにして進めていくのが重要と考える。

次に、大学・高校生との意見交換については、これまでに人づくりの関係でのフォーラムやワークショップで実施することはあった。しかし、中学生とはまだ実施していないので、今後検討していきたい。いずれにしても、若い人と意見交換を行うことで得られる情報が多くあるので、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、ぜひ考えていきたい。

● 穎原委員

日々、新型コロナウイルス感染症対策に大変ご苦労されていると思う。事業が順調に進んでいるものもあれば、修正が必要なものも出ているのではないかと

と思うので、柔軟に見直しも御検討いただきたい。「やまぐち未来アカデミア」について、若い人を含め、県内で様々な方が地域づくりに取り組んでいる。子ども達がそのような方々と触れ合うことで、自分たちの街について考えていけるような場を提供いただきたいと考える。

次に、「ものづくり企業におけるD X加速支援事業」について、高度な専門的知識を持つ人材の育成を図るとともに、そのような方々の働く場所を提供することが重要になってくる。引き続き、企業誘致や、新たな産業の育成に取り組んでいただきたい。

また、「ICTを活用した先進的教育推進事業」について、県立学校に1人1台タブレット端末を導入したことで、良かった点や問題点などを把握していただきたい。生徒や保護者に対して、タブレット端末の使用目的等のアンケートを取ることで、さらに効果的に推進することを期待している。また、生徒の学習状況などについて、メールやオンラインなどで情報発信するとともに、保護者向けのお知らせが、紙媒体で配布されたりする場合があるので、そのようなことがないように進めていただきたい。

最後に、今後も各高等学校の特色を出していくことが重要であると思う。平成29年から高校の探究科が設置されたが、現状は受験生やその保護者に対して趣旨が周知されていないのではないかと思う。現在、県内に数校のみであるので、他の学校にも設置し、学校ごとの特色づくりを図ってほしい。引き続き、各事業が順調に進められていくことを期待している。

●村岡知事

新型コロナウイルス感染症の影響で足踏みをしている事業もあるので、見直しを行わなければならないと考えている。日々、環境も変わってきているので、この機会に各事業において、本来の目的、効果等を改めて見直して組み立て直すことも重要だと思う。

それから、「やまぐち未来アカデミア」について、子ども達にとっても本当に有意義なプログラムなので、中身をしっかりと良いものにして、開催していきたい。

「ものづくり企業におけるD X加速支援事業」について、関係者から状況等も聞きながら、企業の誘致や経営面の支援も進めている。企業はD Xの取組を進めているので、きめ細かなサポートをしていきたい。さらに、コロナ禍の中ではあるが、社会の情勢の変化を踏まえた支援を講じることで、産業の発展に努めていきたい。

県立学校の1人1台タブレット端末について、授業やアンケート等でも使用されている。先生方も生徒に対して、アンケートをすることで、ニーズや改善点等を把握して良い方向に進めるとともに、ぜひフル活用していただきたいと考えている。当然であるが、保護者等に対しての情報発信についても活用いた

だきたいと考えている。

最後に、県教委も受験生やその保護者に対して、探究科の趣旨が周知されていないことを把握していると聞いている。県教委には、保護者の方々に對して、素晴らしいカリキュラムであることを周知していただくようお願いしたい。

●和泉委員

まずは、新型コロナウイルス感染症が教育現場にも影響を及ぼしている状況において、知事、教育長並びに全ての教育関係者の皆様には、本県で学ぶ幼児児童、生徒のために日々ご尽力いただいていることを感謝している。

私の方からは3点ほど申し上げたい。1点目は、1人も取り残さないコロナ対応である。様々な形で新型コロナウイルス感染症の影響を受けている子ども達が多いと思うが、状況把握と支援の強化を行っていただきたい。例えばコロナ禍をきっかけに、ゲームの依存が高まったとか、ひきこもりの人数が増えたり、精神的に不安になっている子ども達が増加しているとニュースで聞いたので、子どもの心のケアが重要であると思う。また保護者の方からも、家計が苦しくなっており、その結果、子ども達が影響を受けているということを聞いている。大学においても、なかなかアルバイトができない状況で、経済的に苦しいからフードバンクで支援してほしいというような学生の声もある。そのような家庭環境であることを把握した上で、何かしらの支援を充実させていただきたい。その場合は、スクールソーシャルワーカーと連携を取る必要があるかもしれない。そこで、知事として、総合的にご支援いただきたいと思っている。

2点目は、ICT、AI、VR等の先端技術を最大限に活用した教育を展開していただきたい。様々な施策を行っているが、ぜひ学力向上や若者の県内定着の視点からも活用する必要があるのではないかと考えている。例えば、オンライン教育であれば、時間や空間を超えて、海外と繋がっている学校もあるが、専門家や大学等からの支援を得る際に、専門家に現地まで来ていただくことは難しいので、オンラインで実施できれば良い。また、県内の若者の定着という観点では、地元大学の専門家によるオンライン授業を進めると同時に、訪問もしていただくなど、連携を深めることも大切である。そのような、ICT教育・オンライン授業を導入することも必要ではないかと考える。

3点目は、横の連携である。各関係課で責任を持って事業を進めているが、目標が重なっているところもある。その際に、1つの目標に向かって進めていくためには、事業間での連携が必要になってくると思う。今年度から、人づくりの推進体制の構築や、「新たな時代の人づくり推進室」の設置、「新たな時代の人づくり推進ネットワーク」の創設ということで非常に良いことだと思う。その他にも、いろんな場面で連携、横との繋がりが必要になると思うので、ぜひ目標に向かって成果を上げていただきたい。そのためにも、知事のリーダー

シップをお願いしたいと考えている。

●村岡知事

3点、お話しいただいたが、いずれも重要であると思う。

まず、1人も取り残さないコロナ対応という点であるが、言われるとおりの新型コロナウイルス感染症に伴い、様々な分野で影響が出ている。我々が気づきにくい面もあると思うので、スクールソーシャルワーカー等を活用しながら、見守りサポートをすることが、ますます重要であると思うし、日々、子ども達の変化をしっかりとキャッチして対応していかなければならないと考える。

それから、ICTの活用について、今年度からICT環境を整備しているのでしっかりとフル活用していただきたいと思う。学力向上もそうであるが、お話しいただいたように、整備したICT環境を利用し、大学の方からもいろいろな話を、県内の高校生や子ども達に聞かせていきたい。それから、生徒に対して、県内企業の情報発信について、県立学校に配布した1人1台タブレット端末でブラウザを起動した際の画面が、共通画面になっているので、そこでいろいろな情報を発信することも可能である。その画面上に、県内企業と産業の情報を共有し、アクセスしやすくなるような工夫もしていきたいと考えている。ぜひ、子ども達に直接、情報を届けることができるように、こちらからもプッシュ型で情報発信をしていきたいと考える。

最後に、行政組織の横の連携であるが、とても重要であると考えている。人づくり体制を強化するために、「新たな時代の人づくり推進室」を設置したが、関係課を中心によく連携をしていかないといけないと考えている。縦割りで物事がうまくいかないということがないようにしていきたい。

●繁吉教育長

まず、昨年度、知事には厳しい財政状況の中、本県の未来を担う子ども達の教育のために必要な財源を確保していただき、お礼を申し上げる。特に、新型コロナウイルス感染症に関係する補正予算について、消毒液等の学校の感染症対策に係る経費や、教育のICT環境の整備を加速させる1人1台タブレット端末の前倒し整備などの予算を確保いただき、本当にありがたく思っている。

現在、非常に強い感染力を持つデルタ株の影響により、県立学校では、地域感染レベルを最高レベルであるレベル3に引き上げているが、昨年度、整備したICT環境を生かして、児童生徒の学びを止めないようにしていきたい。さらには、学校においては、感染防止対策を今一度徹底していきたいと考えている。

それでは、来年度の施策について、本日ご提案があった重点取組方針をもとに、しっかりと取り組んでいきたいと考えており、本日はその中の主要な取組について3点ほどお話ししたい。

まず1点目は、「山口県乳幼児の育ちと学び支援センター」についてである。乳幼児期の教育と保育については、生涯にわたる人格形成の基礎を培う面からも重要なものであることから、県教委では「山口県新たな時代の人づくり推進方針」を踏まえて、今年度、「山口県乳幼児の育ちと学び支援センター」を設置したところである。現在、本センターを拠点に、幼児教育・保育に係る各部署との緊密な連携のもと、公立・私立、幼稚園・保育所等の区別なく、幼稚園教諭・保育士等に対する研修や助言さらには情報提供を実施している。来年度はぜひとも、この推進体制を強化することにより、取組をより充実していきたいと考えている。

2点目は、「やまぐちスマートスクール構想」の推進について、Society5.0時代を生き抜いていく子ども達に必要な力を育成するためには、これまで学校現場で積み上げてきた教育実践に加え、ICTを効果的に活用していくことが重要であると考えている。このため、県教委としては、昨年度、整備をしたICT環境を生かして、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、子ども達の可能性を広げる「やまぐちスマートスクール構想」を推進しているが、この取組は、「山口県新たな時代の人づくり推進方針」に掲げている教育のICT化をより進めていくものでもありと考えている。具体的には、海外の学校とのオンライン交流とか、データサイエンティストの継続的な輩出を目的とした育成講座などを行っており、来年度は「やまぐちスマートスクール構想」をより一層充実させる新たな取組として行っていきたいと考えている。

また、今年度、全ての県立高校に「統合型校務支援システム」を導入する予定としているが、こうしたシステムなどのICT環境を子ども達の学びや学校運営等に効果的に活用するために、管理運用についてもしっかりと行っていきたいと考えている。

最後に、県立高校将来構想にもとづく学校再編について、先ほど頼原委員の話の中で、探究科の話があったが、社会の変化や生徒のニーズの多様化、少子化の進展に対応して、中長期的視点に立って、本県高校教育の一層の充実を図るために、現在、県立高校将来構想の策定に向けて検討を進めている。来年度以降は、本年度に策定する県立高校将来構想に基づき、探究科、特色ある学校づくりと学科の再編整備を行うこととしている。あわせて、施設の長寿命化や教員配置の見直し等を行うことで、生徒や保護者の期待に応える学校づくりに努めてまいりたいと考えている。

県教委は、来年度、新型コロナウイルス感染症対策はもとより、こうした取組を発展・充実させることにより、未来を拓くたくましい「やまぐちっ子」の育成に全力で取り組んでいきたいと考えているので、ご支援いただきたい。

●村岡知事

「山口県乳幼児の育ちと学び支援センター」について、横断的な研修を実施

していただきたいと考えている。

また、「やまぐちスマートスクール構想」は大変素晴らしい取組となっているが、今年度、1人1台タブレット端末を整備したので、海外とのオンライン授業や学校間、高大連携を図る上でも活用いただき、子ども達の教育環境をより充実していただきたい。今後、予算面でもしっかり対応していきたいと考えている。

それでは、「令和4年度重点取組方針」について、本案のとおりすすめていくこととして、よろしいか。

(委員から「異議なし」の声や頷きの反応あり)

それでは、いただいたご意見を十分に生かして、今後の事業の推進、施策の構築をしっかりと進めていきたいと思う。

(3) その他

●村岡知事

本日は、「令和4年度重点取組方針」について、貴重なご意見をいただき、改めて感謝申し上げます。

皆様方のご協力により、来年度の重点取組方針を決定することができました。この方針に基づく具体的な取組について、今後とりまとめる「令和4年度当初予算編成方針」のもとで検討を進めていくが、コロナ禍を契機とした社会変革の動きに柔軟かつ的確に対応するとともに、本日、皆様からいただいたご意見・ご提言も踏まえながら、本県の教育の一層の充実に取り組んでいきたいと考えている。

皆様においても、教育委員としての立場から、引き続きご協力を賜りますよう、お願い申し上げます、まどめの挨拶とさせていただきます。

6 閉会（事務局）

(以上)

※ 上記については、事務局がまとめたものです。